

千葉醫學會雜誌第四號

明治廿五年三月五日發行

論 說

◎上顎纖維性骨腫之實驗

第一高等中學校教授醫學士 三輪德寬閱

同 校醫學部第四年生

中村 榮記
柏村 保記

千葉縣千葉郡千葉町寒川平民石橋ヤへ九年

(既往症) 患者生來健全ニシテ曾テ記ヌ可キノ疾患ニ罹
リシコナク幼時種痘ヲ經過シ昨二十四年輕易ノ眼疾病ヲ
患ヒシノミ

明治二十一年五月頃左側上顎齒槽突起第二門齒ノ上部
ニ於テ豌豆大ノ隆起ヲ發生シ漸々増大スルノ徵アルニヨ
リ某醫ノ治療ヲ乞ヒシガ毫モ奏功ナキヲ以テ昨二十四年
縣立千葉病院ニ來リ治ヲ乞ヒシニ入院ヲ肯セサリシヲ以
テ只拔齒セシノミ手術ヲ受ケサリシト爾後荏苒放置ヒシ

ニ發育尙停止セスシテ現今ハ鷄卵大ニ達シ口ヲ全ク閉鎖
スル能ハサルニ至レリ

(現在症) 二十五年一月廿八日診休格營養共ニ中等脈搏
九十二至ヲ算シ体温三十七度一分

患部ヲ望診スルニ上顎左半側齒槽突起ヨリ鷄卵大腎臟形
ノ腫瘍ヲ發生シ境界判然トシテ前外下方ニ突出ス而シテ常
ニ口ヲ哆開シテ腫瘍ノ大部ヲ露出シ顔貌醜形ヲ呈ス腫瘍
ノ表面ハ畧ホ平滑ニシテ淡紅色ヲ呈シ前面ノ露出セル部
ニ於テ十錢銀貨大ノ粘膜剝離セル部ヲ見ル(蓋シ点灸ニ
起因セルモノナリト云フ) 下顎同側ノ臼齒ハ凡テ腫瘍ノ
壓迫ニヨリ齒齦消耗セルカ爲メ齒根露出シ内方ニ向テ傾
斜セリ第一小白齒根部露出セリ
腫瘍ヲ觸診スルニ硬固ニシテ動搖セズ按壓スルニ波動ナ
ク又疼痛ヲ感スルコトナシ加之羊皮紙樣捻髮音ヲ觸レズ只

顎下ニ於テ多少淋巴腺ノ腫脹ヲ認ムルノミ蓋シ下顎淋巴腺ノ腫脹ハ齒齦炎ニ因スル者ナラン

自覺的症候ハ口内異物ノ感アリテ咀嚼嚥下ニ困難ヲ覺ヘ時々出血ス蓋シ該出血ハ咀嚼ノ際齒牙ノ刺戟ニヨリテ來ルト云フ

腫瘍ニ因スル顔貌ノ變形ヲ測定スル左ノ如シ

耳垂ヨリ頰部ヲ超テ下唇ノ中央ニ至ル距離

右側 一一、仙迷

左側 一二、仙迷

耳垂ヨリ頰部ヲ超テ人中ニ至ル距離

右側 一一、仙迷

左側 一一、五仙迷

外眥部ヨリ頰部ヲ超テ下顎ノ中央ニ至ル距離

右側 一〇、仙迷

左側 一一、仙迷

腫瘍ノ大サ

横徑 六仙迷

縱徑 四仙迷

厚徑 二、五仙迷

腫瘍ノ外部ニ露出セル部

横徑 三仙迷

縱徑 二仙迷

(鑑別) 全身骨格中腫瘍ノ尤モ多發スル部ハ顎骨ヲ以テ第一トス即全身腫瘍ノ二十分一ハ顎骨ニ發スルモノニ就中十分一ハ上顎骨ナリ此ノ如ク顎骨ニ腫瘍ノ多發スル所以ハ顎骨及齒牙ノ發育機ハイモル氏洞ノ形成口内諸種ノ刺戟等之レカ誘因トナルニ因ルナリ而シテ其性質ハ善惡共ニ能ク發スレト殊ニ惡性ノ者ヲ多シトス本患者ノ腫瘍ハ經過ノ緩慢腫瘍ノ限局、疼痛ノ欲如、及淋巴腺ノ侵襲セラレザル等ノ諸症ヲ以テ見レバ恐クハ善性ノモノナリトス
今茲ニ善性ノ者ヲ舉クレハ炎性ト腫瘍トノ中間ニ位スルモノ即齒槽突起ノ骨膜下囊腫、牙腫、「エプリス」齒齦腫瘍纖維腫、骨腫、軟骨腫等ナリ而シテ本患者ノ腫瘍ハ其硬

度ヲ以テ囊腫ニアラザルヲ明ナリ牙腫ノ如キハ多クハ下顎骨ノ後臼齒ニ發スルモノニシテ上顎骨殊ニ前方ノ齒牙ヨリ發スルモノニ非ラズ又齒齦腫瘍即チ「エプリス」ハ齒槽突起及ヒ齒齦ニ生スル種々ノ腫瘍ノ總稱ニシテ或ハ肉腫ノ如キ惡性ノモノヲ混スルコトアリテ其種屬不明ナリト雖凡通例所謂「エプリス」ハ莖ヲ有シ之レニ觸ル、ニ柔軟ニシテ齒齦ト同一ノ色澤ヲ有スルカ或ハ靜脈充血ノ爲メ稍々暗赤色ヲ呈シ多クハ拇指頭大ニ止リ顯微鏡下ニ檢スレハ圓形并ニ紡錘形等ノ肉腫ニ類似セル細胞ヲ有スルモノナリ故ニ本患者ニ發セル腫瘍トハ全ク特異ナルモノトス

纖維腫、骨腫、軟骨腫ノ三種ハ臨床上ニハ能ク類似スルヲ以テ顯微鏡檢査ニ由ラサレハ判別スル能ハサレ凡性質堅硬ナルヲ以テ見レハ骨腫ニ近シヒユ一テル氏ノ外科書ニヨレハ纖維腫ハ齒槽突起殊ニ門齒間ノ骨板ニ生スルコト多シ而シテ其増大スルニ及ンテハ鶏卵大トナリ骨板ヲ擴張シ唇ヲ押壓シテ突隆シ頗ル醜容ヲ現ハシ堅硬ナルコ

ト骨腫ノ如シ然レ凡此症ハ一般ニ稀ニシテ二十才以上ノ壯年強實ノ者ニ發スト云フ本患者モ亦タ門齒部ヨリ發シ硬固ナルヲ以テ見レハ或ハ纖維腫ナルヤモ計リ難シト雖臨床的ニ之レヲ確言スルコト能ハズ摘出后筒井學士ニ依頼シテ之レヲ鏡檢セシニ果シテ纖維腫ト骨腫ノ合併症ナリシ

(診斷) 纖維性骨腫

(手術) 三輪教授執刀 一月廿九日午后一時先ツ防腐液

ヲ以テ患者ノ口内ヲ洗滌セシメ斜面上ニ於テ「クロ、ホルム」麻醉ヲ行ヒ介者頭部ヲ固定シ兼テ患側ノ口角ヲ外上方ニ向テ翻轉シ術者ハ先ツ上唇ト齒齦トノ境界部ニ刀ヲ下シ切開スルコト三仙迷而シテ粘膜炎及ヒ骨膜ヲ剝離シ鑿ヲ以テ腫瘍ノ根底部ヲ割鑿シ次テ起子ヲ割鑿部ニ送入シ腫瘍ヲ前方ニ挺除セシニ腫瘍ノ根基部ニ位セル口蓋側ノ粘膜炎ハ巾一仙迷半長サ四仙迷籠狀ニ下垂スルヲ見ル此粘膜炎ハ異日切除部ヲ被覆スルニ供センガ爲メ保存セリ而シテ少ク骨髓ヨリ出血スルヲ以テ術者ハパシエリン

(論 說) 「ツベルクリン」ノ結核性小兒ノ新陳代謝ニ於ケル感作

氏燒灼器ヲ以テ全創面ヲ燒灼シ防腐液ノ洗滌ヲ行ヒ過滿
 尿酸加里ヲ散布シ全ク手術ヲ了セシハ午後一時二十分ナ
 リキ

腫瘍ハ其長徑三分一ハ遊離シ三分二ヲ以テ顎骨ニ癒着セ
 リ而シテ其臼齒ニ胎存シ重量三七、〇ナリ

(術后ノ經過) 二十九日手術ノ夕体温三十七度七分脈搏
 百十至嘔氣嘔吐等ノ症ナク僅カニ食氣不振ヲ來セルノミ
 三十日ヨリ三十一日マテ体温三十七度八分ヨリ三十九度
 ノ間ヲ昇降シ爾後体温三十七度五分乃至三十八度一分ノ
 間ヲ昇降シ食欲奮ニ復セリ

創面ハ始メ黑色ノ燒痂ヲ以テ掩ハレ辨狀ヲナセシモ漸々
 粘膜翻轉シテ創面ヲ被ヒ以テ齒齦ヲ形成シ逐日快癒ニ赴
 キ二月十四日全治退院セリ

◎「ツベルクリン」ノ結核性小兒ノ

新陳代謝ニ於ケル感作(承前)

第一高等中學校教授醫學士 瀬川昌著述

第 一 試 験 C.

食 物					排 出 物							
牛 乳		ツウイン ツバツ		合計	尿							
量	窒素	グラム量	窒素	窒素	量	比	尿	尿	合	格魯兒那度留謨	磷	
						重	素	酸	計		酸	
19/1	1200	7.08	120	1.93	9.01	610	1017	15,480	202	7.73	3.78	1.44
20/1	1200	7.08	60	0.93	8.01	700	1022	18,410	321	9.41	4.69	1.96

注射熱四十度